

居住支援と ”ソーシャル不動産事業者”



神戸YWCAは2019年に、「住宅確保要配慮者居住支援法人(居住支援法人)」として、兵庫県の指定を受けて、活動しています。「居住支援」に来られる方は、いろいろな問題を抱えておられ、一般的な家探しとは違い、そこには不動産業者や大家さんの理解が必要です。

そのために、私たちはシンポジウムを開いたり、ネットワーク会議を行っています。

今回は、アドバイザーとして関わってくださっている近畿大学建築学部准教授の寺川さんから寄稿いただきました。



寺川 政司
(近畿大学建築学部准教授)

居場所づくりを通じた地域の再価値化に関する研究をはじめ、新たなハウジングスタイルの構築、リノベーション事業やコミュニティデザインによる持続可能なまちづくりに関する実践的研究を進めています。

神戸YWCAが主催する居住支援ネットワークに参画して5年。この活動を通じて、多くの課題や関係者との出会いがありました。特に、困窮者を受け入れている不動産事業者との連携を深める中で、彼らの存在が居住支援の実践において重要な役割を果たしていることを実感し、私たちは彼らを「ソーシャル不動産事業者(SRE)」と呼ぶようになりました。

居住支援を考える上で、不動産業界は住まいの確保という根幹部分を担っていますが、対象者が入居制限の対象となることも多く、物件の確保が難しい現実があります。国土交通省の調査によれば、高齢者、障害者、外国人に対して6~7割の不動産業者が入居制限を設けており、その理由として孤独死や保証人問題、家賃滞納、生活習慣の違いによるトラブルなどが挙げられています。

また、居住支援法人の中には、不動産業者が法人格を取得しているケースも多く見られますが、その実態はさまざまです。利益追求のみを目的とした業者や、体制が整っておらず活動が停滞している業者も存在します。一方で、日常の不動産業務を通じて課題を抱えた世帯の存在に気づき、社会的意義を持って居住支援に取り組む不動産業者や、福祉法人、NPO法人も多くあります。

SREへのインタビューやネットワークでの実践を通じ

て明らかになったのは、彼らが日常業務の中で出会う居住支援対象者の困難な状況を見過ごすことなく、大家さんへの説得や当事者への寄り添い、見守りなど、本来の不動産業務にはない支援を展開していることです。このような独自の支援の形を生み出す中で、居住支援事業に参画するようになった経緯があります。

一方、神戸YWCAをはじめとする福祉系の団体では、対象者への対応に追われ、居住支援の範囲や負担、住まいの確保に苦労している現状があります。その中で、SREとの連携や役割分担によって相互メリットがあるのではないかという議論が始まっています。行政との連携が深まるSREも増加しており、全国的にも事業の意義や担い手、事業者ネットワークを模索しているSREが出てきています。

現時点でSRE自体は定義されておらず、一般的ではありませんが、ネットワークで出会った「居住支援」に関わる建築・不動産事業者と実践を通じて、その必要性和社会的意義を感じています。各地の居住支援法人でも、同様の課題を抱えていることが予想される中、神戸YWCAでの取り組みは、その先駆けとして今後の展開に注目しています。

今後、SREの活動が広がることで、住宅確保要配慮者への支援がより充実し、地域社会全体の包摂性が高まることが期待されます。そのためには、SREと福祉団体、行政が連携し、持続可能な支援体制を構築することが重要だといえます。

神戸YWCA主催「”ソーシャル不動産”のススメ」開催!

...

実際に”ソーシャル不動産”に取り組む不動産業者や障害者支援事業所などから3人の登壇者を迎えて、多くの意見交換を行いました(3月9日/参加者:35人)

第105回 神戸YWCA定期会員集会

2025年3月8日(土)第105回神戸YWCA定期会員集会が開催された。

開会礼拝では大工原則子さんが「神戸YWCAと私」のタイトルで話された。また日本YWCA樋口さやか会長からの「忍耐強く続ける意味」との挨拶が木村会長によって代読された。理事会からは、2025年度学院事業の終了、2026年4月までに会館売却、2027年度より日本YWCAとの共同事業として自立援助ホームの開設予定が報告された。

議事では2024年度会員活動報告と会計報告、2025年度会員

活動計画案と予算案が話し合われた。

2025年度ビジョン：一人ひとりが大切にされる社会／ミッション：多種多様な「つながりづくり」によって、個と集団をエンパワーする／活動目標：つながりの意味を深め、共に動こうが報告され、会員活動における課題や運営の方法などの質疑の後承認された。

午後の部では特に理事会からの会館売却の報告を受け、「新しい活動の方法をみんなで考えてみよう！」とのテーマで話し合った。会員活動にとって大切

な人材・居場所・財政について、それぞれの課題を話し合い、今後の活動にむけ準備をしていく年度となる事を共有した。(宮田 泰子)



午後の部では、各グループの現在の活動場所や工夫などを共有した。

2025 年度標語聖句

見よ、新しいことをわたしは行う。
今やそれは芽生えている
(イザヤ書 43 章 19 節)

神戸 YWCA ビジョン

一人ひとりが大切にされる社会

神戸 YWCA ミッション

多種多様な「つながりづくり」によって、
個と集団をエンパワーする

2025 年度活動目標

つながりの意味を深め、共に動こう

2025年度 神戸YWCA運営委員

会 長 木村 文子
副会長 金本 美子、森 恭子
書 記 住田 サーラ、山本 彩音
会 計 宮田 泰子
委 員 斎藤 明子、福田 百、山崎 恵

2025年度 委員会担当運営委員

世界・社会委員会	斎藤・住田 森・山崎
環境・くらし委員会	金本
ユース・エンパワメント委員会	木村
キリスト教基盤委員会	宮田
機関紙編集委員会	斎藤・山本
定期会員集会準備委員会	宮田
ファンドレイジング実行委員会	住田・宮田

会費納入のお願い

2025年度(2025年4月～2026年3月)の会費・会友費の納入をお願いいたします。2024年度の会費が未納の方は、併せてお納めください。

まごの手ヘルパー徒然記 ～介護の現場から～

視覚障害の方の外出に同行し、移動のサポートをする「同行援護」というサービスがある。

同行援護には、兵庫県指定の養成研修を受けて、ガイドヘルパーの資格が必要なサービスである。先日、女子中学生の同行援護のサービスを担当した。自分の考えを言葉にすることが出来る、聡明な中学生である。

その彼女が、来週校内の弁論大会があると言う。テーマを尋ねると、「自分らしさ」について話す

つもりだと教えてくれた。「自分は自己表現が苦手なのでそれを克服し、自分らしさを表現していきたい」のだそうだ。

そう思うきっかけは、あるLGBTQの方の話を聞いたことだった。その方は、ずっとその事実を隠していたが、大学入学をきっかけに、思い切って隠すのをやめた。すると、意外にも周囲はすんなりと受け入れてくれ、「壁を作っていたのはむしろ自分の方だった」と思ったという。

それを聞いた彼女は、もしかしたら自分も

そうなのかもしれない。自分で壁を作って息苦しくしていたのかもしれない。それなら自分も壁を越えようと思った、と語ってくれた。その眼差しは将来をしっかりと見据えているように感じた。こんな素敵なお話が聞けるから、人と関わる仕事は辞められないと、そう思う瞬間であった。

(まごの手職員・加藤 純子)



子どもたちの保育園 - 見えないものを育てる -

子どもの数が減ってきた昨今、保護者は何を大切に考えて、保育園を選ぶのか。毎日の事なので通園手段、駅近、広さ、職員数、食事…など掲げる条件は多々あると思う。働きながら子育てする保護者にとっての利便性は、子どもたちにとっての通いたい保育園の条件になるのだろうか。

神戸YWCA保育園は、0,1,2歳の子どもたちにとって今必要なのは「おうちと同じように過ごせる環境」だと考えている。おもしろそうだからやってみる。やってみるための十分な時間を確保する。そのために保育者たちは臨機応変に動く。この時期の育ちの個人差

は大きいので、一斉ではなく、一人ひとりにあわせた関わりを家庭と共有しながら進めていく。広さも十分ではないし、駅からも近くはない。が「きょうも保育園に行きたい!」「Aちゃんと遊びたい」と思える毎日が過ごせる園だと自負している。園庭はなくてもいろんな公園に行き、地域の人たち、近所のおともだちと関わりながら育っている。

乳幼児期に人間の基礎が形成され、この時期に培われたものが生涯の生き方の基盤となると言われる。私たちは、目に見えないものを育てるという大切な役割を担っていることを忘れてはならない。笑

顔で保護者を支え、子どもたちに添い、みんなに元気づけられながら子どももおとなも共に育つ保育園であり続ける。

(神戸YWCA保育園 梅川玲子)

◆ 橋本静子ピアノリサイタル開催 ◆

「橋本静子ピアノリサイタル」が6月12日、神戸YWCAチャペルで開かれた。

橋本さんは今年95歳。神戸YWCAで60年あまり活躍され、あらゆる場面でピアノ演奏を担ってくださった。その長年の奉仕と交わりに感謝して自ら企画してくださった演奏会である。橋本さんの円熟したピアノ演奏に感動するひと時を過ごした。

クラシックギターの音色で平和を祈る

神戸YWCAチャリティーコンサート「鈴木一郎ギターリサイタル」が5月11日に神戸聖愛教会(神戸市中央区)で開催され、約



130人の聴衆がひと時、クラシックギターの演奏に酔いしれた。

鈴木さんは神戸在住の77歳。ヨーロッパを拠点に、芸術監督やソリストとして長年活躍、帰国後も南北アメリカ、カリブ海諸国、アジアなど活動の幅を広げられた。

今回は縁あって、神戸YWCAチャリティーコンサートとして出演していただくこととなった。演目は10曲、「皇帝の唄」をはじめ「三つの練習曲」「映画音楽～メリークリスマス Mr.ロレンス～」な

ど。最後に旧知のウクライナ民族楽器・バンドゥーラ奏者のオクサナ・ゲラシメンコさん作「桜の花のワルツ」を披露しウクライナの平和を祈った。参加者からは、「素晴らしい音色でした」「初めてクラシックギター演奏を聞き感動しました」との声。

収益の一部は、戦禍の中にあるウクライナの方々への支援になればと、日本YWCAを通じてウクライナYWCAへ届ける。



退職後の第二の人生は、ボランティア活動で地域社会と繋がりたいと思い、始めたのが「声の奉仕」だ。キックオフミーティング2023では、声の奉仕グループは世界・社会委員会に入っており、そこで一緒になったグループの方とプロジェクトについて話し合った。初対面でも互いに語り合うことで共感出来た。

今、神戸YWCAは新事業に取り

組もうとしている。運営委員の一員として情報を共有し、協働活動に参加することで課題の解決に努めたい。初めて運営委員になり、認識不足もあると思いますが、よろしくお願ひします。(会員・山崎恵)

3年前の「たてごと」には「第5回日本語指導者養成セミナー」が神戸YWCAとの接点で、それ以来日本語教育に携わってきたこと、会館が二宮町に移転した2001年に、私もその近くに転居したご縁を感じたと書いた。

秋で4年になる。声の奉仕グループは兵庫県声の図書赤十字奉仕団にも所属しており、例会・勉強会以外の活動は専ら日赤兵庫県支部で行っている。

2021年9月から「声の奉仕グループ」の活動に参加して、この





*予定は変更されることがありますので、ホームページ
SNS等で最新情報をご確認ください。

神戸YWCA会館

●わいわいデイルーム

(神戸市地域拠点型一般介護予防事業)
毎週火曜日、10時30分～14時30分
対象：神戸市在住の65歳以上で、自分で通って来られる方。*近くの「あんしんすこやかセンター」でお申し込みください。

●木曜カフェ

第2・4木曜日、13時30分～15時30分
レコードで懐かしい音楽を聴きながら、ほっこりしませんか。(1ドリンク100円～)



●文学講座

第3火曜日 13時30分～15時30分
更級日記を読み進めています。
ご一緒にいかがですか。

●聖書を読む会／●讃美歌を歌おうかい

今年度に関しては不定期開催。神戸YWCA 事務局へお問い合わせください。

なだのはまエイト

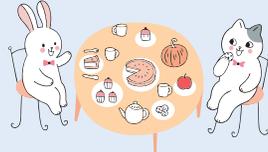
●丹波太郎の新鮮野菜市とミニミニバザー

毎週金曜日、13時30分～14時30分



●みんなのカフェ

毎月第3日曜日、10時～12時
参加費：200円



その他

●カフェもぐもぐ

若年性認知症の人と仲間たちのつどい
毎月第1土曜日、10時30分～15時
場所：日本基督教団神戸聖愛教会
参加費：900円(食事付)
*要予約、日程変更もあるので事前にお問い合わせください。

◆イベント◆

●ピース・ブリッジ
学び 語り合いつながる会
～アウシュビッツへの旅から
視えた 平和への道～

日時：7月19日(土)
14時～16時
お話：野村麻裕さん
場所：喫茶「エスポワール」
(阪急六甲駅南側)
会費：1,000円
(資料、ワンドリンク含む)

③会館売却の件

会館売却を決定した。2026年4月に売却完了を目指して具体的な作業に入る。なお神戸YWCA本部と保育園、介護事業所は会館で事業継続する。
(総幹事・西本 玲子)

■ 学院だより

今年も外国ルーツの子どもの学習支援「夏休み勉強に役立つ日本語クラス」(7/22～8/2)を行います。誰でも参加できるように受講料教材費は無料です。「子ども日本語トータルサポート募金」へのご寄付で応援をよろしくお願いいたします。クラスの様子はFBとInstagramでご覧いただけます。(学院長・西本 玲子)



神戸YWCA学院
Facebookページ



神戸YWCA学院
Instagramページ
アカウント名：
kobeywacollege

■ 保育園だより

神戸YWCA 保育園は「おうちのように」「きょうだいのように」毎日を過ごしている。卒園式は行わず、3月31日はいつもと同じように子どもたちを送り出す。次の朝、昨日まで部屋で一緒に遊んでいたAちゃんを探す子どもたち。新年度の幕開けは、いなくなった人に気付くことから始まる。大丈夫！また、遊びに来られるよ。(園長 梅川 玲子)

■ まごの手だより

2024年度末、子育て支援コーディネーター藤原道子が定年退職。訪問介護管理者藤

井かえ子が退職。2025年度からそれぞれ登録ヘルパーとして活動を継続している。また、藤井かえ子は新たに設置した居住支援担当(パート)に着任した。

訪問介護事業所では、4月に加藤純子が管理者に着任した。サービス提供責任者には加藤純子(兼務)、山田司、松尾玲子、野村春美(パート職員)。常勤ヘルパーは青木直子、有馬恵子(6月着任)。パートヘルパーは清靖代。登録ヘルパー29人とともに、人々の暮らしを支えている。(所長・寺内 真子)

■ 運営委員会報告

- 第7回(11月9日)出席5人、【報告協議】2025年度計画(神戸YWCAビジョン、ミッション、目標)、オープンミーティング振り返り、ファンドレイジング実行委員会のその後など
- 第8回(12月14日)、出席6人、【報告協議】理事会からの報告、運営委員会24活動報告、25年度ビジョン、ミッション、目標、25活動計画について協議
- 第9回(1月11日)出席5人、【報告協議】定期会員集会に向けて全体プログラムの確認、運営委員報告の内容と分担
- 第10回(2月1日)、出席6人【報告協議】定期会員集会関連確認と決定、午後プログラムの内容協議、スケジュール確認
- 第105回定期会員集会(3月

8日)出席28人、委任状54人
<日本YWCA関連>

- 日本YWCA中央委員会(5月24日)参加：副会長、総幹事@名古屋YWCA
(総幹事・西本 玲子)

■ 理事会報告

- 通常理事会：
第5回(11月13日)第6回(12月9日)第7回(12月21日)第8回(1月8日)第9回(2月8日)第11回(4月28日)
- 2025年度事業計画及び予算理事会(第10回/3月24日)
- 2024年度監査(5月28日)
- 2024年度事業報告及び決算理事会(第12回/5月28日)
- *参加：全て理事7人、監事2人
- 議決事項
中長期ビジョンを明確にするための、既存事業の抜本的見直しと新規事業開拓の提案を経て、神戸YWCA理事会において以下が決定された。
①事業の改廃について。
単一事業として赤字となる事業については2025年度に事業終了する。該当事業は神戸YWCA学院事業。継続事業は、神戸YWCAまごの手、神戸YWCA保育園。
②児童自立生活援助事業(自立援助ホーム)実施の件
日本YWCAが全国展開を検討する女性と子ども応援事業(仮)の一環として、神戸YWCAでは自立援助ホームに関して2027年4月開設を目指して準備に入る。

■ 賛助員

温かい応援を感謝します！
【2024年度】
古賀典子、宮田輝雄(敬称略)
【2025年度】
岩村義雄、尾崎敦子、小室こゆみ、平山嘉廣、三浦哲朗(敬称略)

■ 編集後記

生きもののいのちが育まれる春から初夏。燕が巣作りをした。夏には無事に巣立って南国へ旅立って欲しいと願う。(S・I)



／ 応援してください ／

外国にルーツを持つことも
たちの学びを応援してください！

子ども日本語
トータルサポート募金

皆様のご支援で、この夏実施する「勉強に役立つ日本語クラス」「はっぴー・すくー」への、子どもたちの参加費が無料になります。昨年は30人の子どもたちが学ぶことができました。ぜひ今年も子どもたちを応援してください！

目標額：100万円(振込用紙に「子ども日本語」とご明記ください)

・振込先：郵便振替01100-0-10298 公益財団法人神戸YWCA

・ご寄付は税額控除の対象になります。